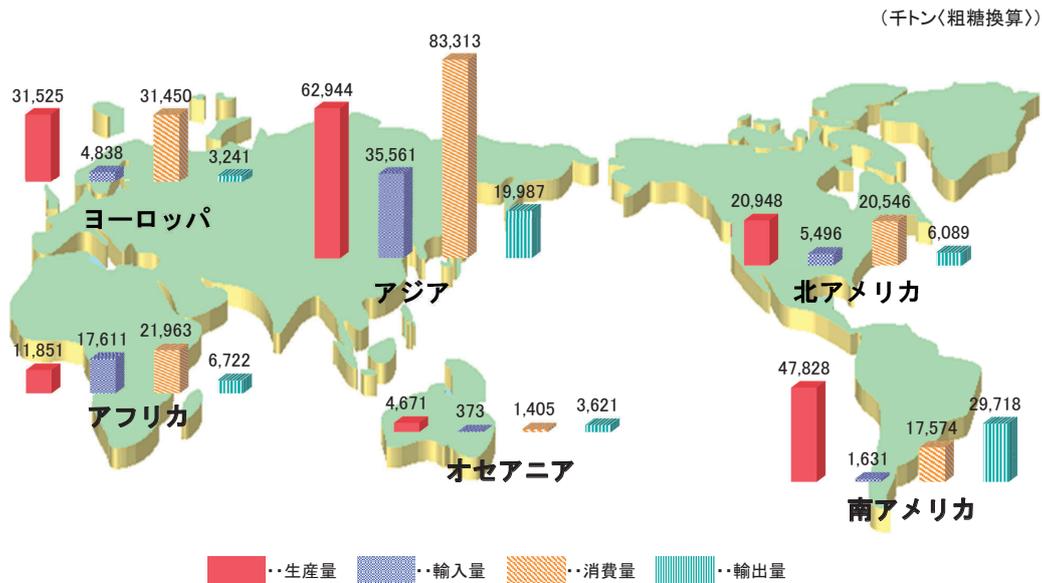


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2020年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2019/20年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国、英国、ロシアほか17カ国を含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2020年6月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2019/20砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億7977万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉）、前年度比3.7%減、3月予測より増加とやや減少すると見込まれる（表1）。南アメリカは前年度を上回る一方、アジアでは主要産地であるインドやタイ、中国の減産の影響により2年連続で前年度を下回る見通しである。

同年度の世界の砂糖消費量は、1億7625万トン（同3.8%減、3月予測より減少）とやや減少する

と見込まれている。3月予測では1億8496万トン（同1.0%増）とわずかな増加が見込まれていたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行拡大を受けて各国で都市封鎖が実施されたことや世界的な景気後退の影響を勘案し、今回の予測では3月予測から4.7%下方修正された。すべての地域において、砂糖消費量が前年度から減少すると見込まれる。

全体を見ると、期末在庫率は同1.6ポイント増の47.9%（3月予測より増加）と見込まれることから、砂糖の需給は前年度よりも供給過剰となる見通しである。なお、地域別の砂糖需給は図1の通りである。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,030	160,315	56,023	164,749	56,244	50,373	30.6
2014/15	69,133	183,717	59,707	176,663	62,081	73,812	41.8
2015/16	73,812	175,955	67,776	178,653	69,077	69,814	39.1
2016/17	69,814	180,387	70,759	181,308	71,288	68,363	37.7
2017/18	68,363	195,715	65,866	180,367	67,772	81,806	45.4
2018/19	81,806	186,763	61,131	183,163	61,709	84,827	46.3
2019/20 (2020年3月予測)	83,654	176,970	65,022	184,961	66,692	73,994	40.0
2019/20 (2020年6月予測)	84,827	179,767	65,510	176,251	69,378	84,476	47.9

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

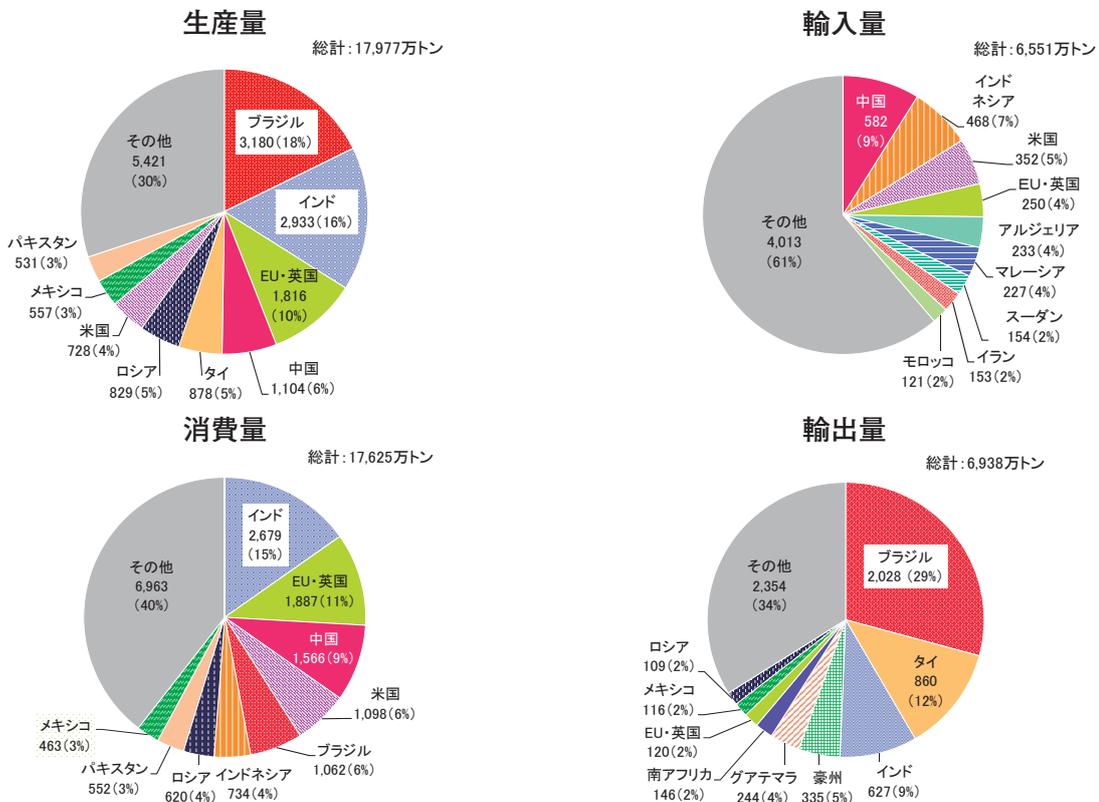
注2：2018/19年度以降は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2020年6月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2019/20年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2020」

注1：主要国の年度は、各国の砂糖年度。

注2：主要国とその他を表示。

注3：「その他」は総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

【生産量】

2019/20年度の砂糖生産量を国別に見ると、ブラジルは、砂糖の国際価格の低迷を受けてサトウキビのエタノール生産への仕向け割合が前年度に引き続き6割を超えるものの、砂糖生産への仕向け割合をこれ以上減らすことが困難とみられることから、3180万トン（前年度比1.9%増、3月予測から増加）とわずかに増加し、結果として首位に返り咲く見通しである（図2）。

インドは、サトウキビの主産地で豪雨による浸水被害が発生した影響で、2933万トン（同18.1%減、3月予測から変化なし）と大幅に減少し、第2位に後退する見通しである。

EU（英国を含む。以下同じ）は、干ばつや熱波の影響を受けててん菜の生育が伸び悩んだことから、1816万トン（同0.5%減、3月予測より増加）とわずかに減少すると見込まれる。

【輸入量】

2019/20年度の砂糖輸入量を国別に見ると、中国は、中央政府による国内の砂糖在庫の増加方針を受け、582万トン（前年度比15.5%増、3月予測より増加）とかなり大きく増加すると見込まれる。

他方、インドネシアは、砂糖の在庫が積み上がっていることで輸入糖の需要が低下し、468万トン（同13.0%減、3月予測より増加）とかなり大きく減少すると見込まれる。

【消費量】

2019/20年度の砂糖消費量を国別に見ると、COVID-19の感染拡大防止のために都市封鎖が世界的に実施されたことを受けて、インドは2679万トン（前年度比2.7%減、3月予測より減少）、EUは1887万トン（同2.7%減、3月予測より減少）、中国は1566万トン（同5.2%減、3月予測より減少）と減少が見込まれる。

一方インドネシアは、昨今の景気動向や個人消費が堅調に推移していることを踏まえ、734万トン（同2.3%増、3月予測から変化なし）とわずかに増加すると見込まれる^{（注）}。

（注）インドネシアの砂糖年度は4月～翌3月であるため、2019/20年度におけるCOVID-19の砂糖消費に及ぼす影響は限定的と予測される。

【輸出量】

2019/20年度の砂糖輸出量を国別に見ると、ブラジルは、砂糖の国際価格の低迷を受けて2028万トン（前年度比3.5%減、3月予測より減少）とやや減少すると見込まれる。第2位のタイは、他作物への転作や全土的な少雨に伴うサトウキビ生産量の減少などによって砂糖生産量が大幅に落ち込んだことに伴い、860万トン（同14.9%減、3月予測より増加）とかなり大きく減少すると見込まれている。

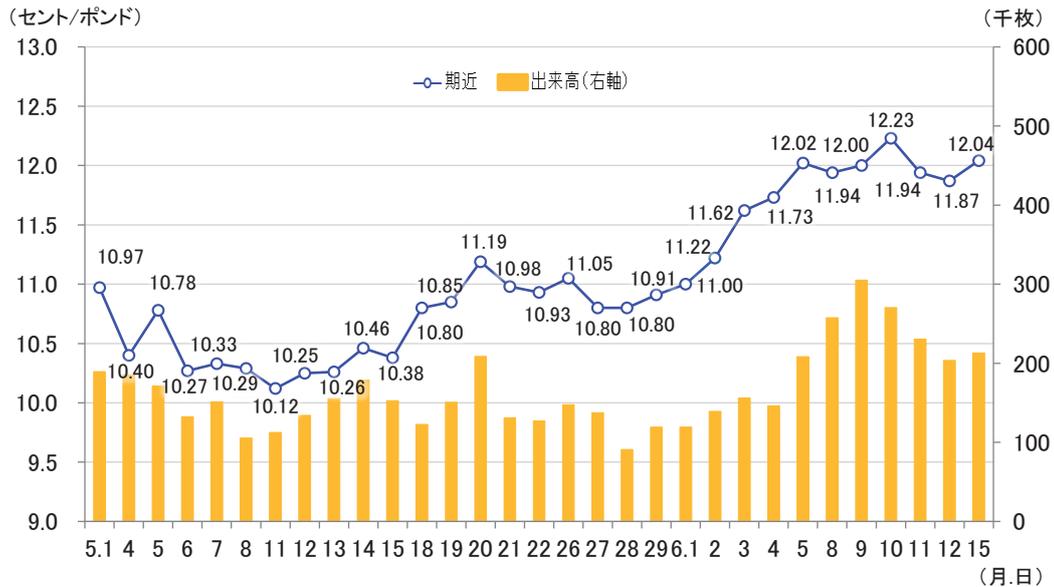
インドは、砂糖の過剰在庫の解消に向け、政府が補助金政策などを通じて輸出を促進していることを受け、627万トン（同14.0%増、3月予測より増加）とかなり大きな増加が見込まれる。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (5/1 ~ 6/15)

~5月中旬に10セント台前半で推移も、徐々に上昇し12セント台へ移行~

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：期近7月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年5月の推移を見ると(7月限)、1日は、原油価格の上昇^(注1)とインドにおける砂糖の減産見通しに支えられ、1ポンド当たり10.97セント^(注2)の値を付けた。4日は、2020/21年度の砂糖在庫が増加するとの観測から、同10.40セントまで急落したが、5日は原油価格の上昇によって反発し、同10.78セントまで値を戻した。6日は原油価格の落ち込みとリアル安^(注3)が重しとなり、同10.27セントと下落した。その後数日間は横ばいで推移したが、11日はブラジルでの砂糖増産の動きを受けて、同10.12セントと下落が進行した。15日は原油価格が上昇したものの、記録的なリアル安が下げ要因となり、同10.38セントと下落した。その後は原油価格の上昇や、売られすぎの反動などから続伸し、20日は同11.19セントと約2カ月ぶりに11セント台に乗せた。21日は、

COVID-19の流行によるブラジルの景気後退に対する懸念と、バイオエタノール需要の減少を受けて同10.98セントと下落し、22日は原油価格の下落が重しとなり続落した。27日は、前日に米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) が2020/21年度におけるインド産糖の増産を予測した影響で同10.80セントと下落したが、29日は原油価格の上昇に伴い同10.91セントまで値を戻した。

6月1日は、ブラジルにおけるCOVID-19の感染者数の急増が砂糖生産や輸出に少なからず影響を及ぼす可能性があり、同11.00セントと値を上げた。その後4日間は原油価格の上昇やリアル相場の回復に伴い続伸し、5日は同12.02セントと約3カ月ぶりに12セント台の値を付けた。週明けの8日は、原油価格の下落を受けて同11.94セントまで値を下げたが、その後は上昇に転じ、10日は、ブラジル

の製糖業者がエタノール生産量を増やすとの憶測が広まったことで同12.23セントの値を付けた。その後下落したものの、15日は原油価格の上昇に伴い同12.04セントと値を上げた。

(注1) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替(補填)燃料であるバイオエタノールの需要も上昇する。バイオエタノールの需要が上昇すると、その原料作物(サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サ

トウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ることが想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが安くなると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が強まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まれば、需給の緩みにつながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2020年6月時点予測)

本稿中の為替レートは2020年5月末日TTS相場の値であり、1ブラジル・レアル=21.89円、1インド・ルピー=1.58円、1ユーロ=121(120.63)円である。

ブラジル

2020/21年度(4月~翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：859万ha(前年度同)

生産量：6億5100万トン(前年度比1.6%増)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：4291万トン(同34.9%増)

輸出量：3317万トン(同63.6%増)

2020/21年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に増加する見込み

2020/21年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、原油の国際価格の動きに不安定さが見られ、バイオエタノール需要も不透明感があるものの、バイオ燃料など再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策「RenovaBio」の本格始動が生産意欲を後押しする可能性があることも踏まえ、859万ヘクタール(前年度同、5月予測から変化なし)と横ばいで推移すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、生育期間を通じて天候がおおむね良好で生育が順調であることから、6億5100万トン(前年度比1.6%増、5月予測か

ら変化なし)とわずかに増加すると見込まれる。

バイオエタノール需要の減退懸念などを受け、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰する動きが見られることから、砂糖生産量は4291万トン(同34.9%増、5月予測より増加)と大幅に増加すると見込まれる。この予測の下、ブラジルの通貨レアルが米ドルに対して安値圏で推移することで、輸出意欲を刺激することとも相まって、輸出量は3317万トン(同63.6%増、5月予測より増加)と大幅に増加すると見込まれる。

BNDES、エタノール部門支援のための融資を承認

国立社会経済開発銀行（BNDES）は6月8日、COVID-19による経済活動の停滞に伴うエタノール需要減退を受けて、苦境に立つブラジルのエタノール産業の支援を目的とした融資枠を設けたと発表した。BNDESによると、今回の融資総額は、市中銀行の融資も合わせ30億リアル（656億7000万円）程度となるとしている。本融資はエタノールを担保に貸し付けを行い、返済期間は基本2年間で、さらに1年間の猶予期間が設定される。最大貸付額^(注1)に達した企業は、2カ月間正社員の解雇ができないという条件を付す。

同国のエタノール需要は、都市封鎖の影響を受け

て大きく落ち込んでいる。ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^(注2)によると、同国中南部地域の製糖業者が4月～5月で国内市場に販売したエタノールは37億5592万リットル（前年同期比29.8%減）と大幅に減少した。このような状況の中、UNICAは政府に対し、エタノール部門への支援策の必要性を訴えていた。

^(注1) 本融資の対象となるのは年間粗収益が3億リアル（65億6700万円）以上の企業や組合などで、BNDESから1000万リアル（2億1890万円）～2億リアル（43億7800万円）の融資を受けることができる。ただし、BNDESからの融資は融資金額の最大50%が上限となる。

^(注2) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める、中南部地域を管轄区域とする業界団体。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

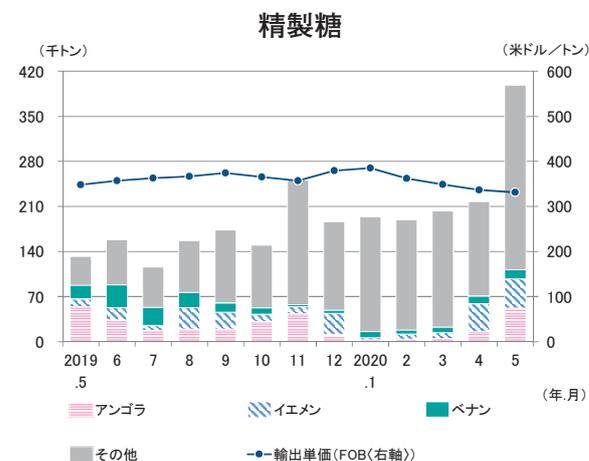
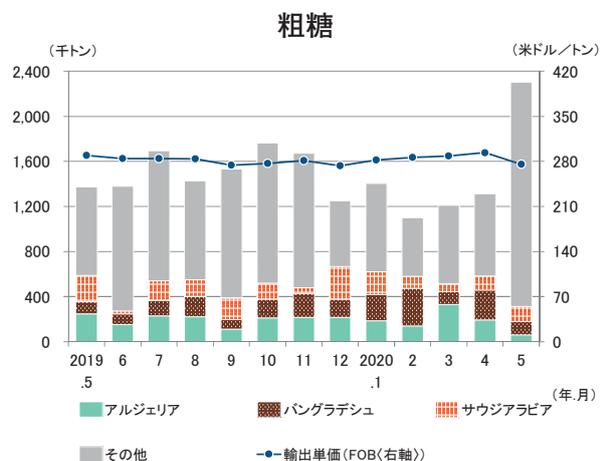
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (5月予測)	2020/21 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,617	8,649	8,587	8,587	8,587	0.0	
サトウキビ生産量	641,066	620,825	641,003	651,000	651,000	1.6	
砂糖	生産量	41,517	31,225	31,804	41,958	42,912	34.9
	輸入量	2	3	3	3	3	0.0
	消費量	10,852	10,635	10,621	10,353	10,385	▲2.2
	輸出量	31,026	21,017	20,275	32,250	33,173	63.6
	期末在庫量	663	239	1,150	529	508	▲55.9
	期末在庫率	1.6	0.8	3.7	1.2	1.2	2.6ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：461万ha（前年度比10.4%減）

生産量：3億5388万トン（同14.0%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：2933万トン（同18.1%減）

輸出量：627万トン（同14.0%増）

2019/20年度、砂糖生産量は減少するものの、輸出量は増加する見込み

サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州で発生した豪雨による大規模な圃場の浸水被害などが影響し、2019/20年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は461万ヘクタール（前年度比10.4%減、5月予測より増加）とかなりの程度減少し、サトウキビ生産量は3億5388万トン（同14.0%減、5月予測より減少）とかなり大きく減少すると見込まれる（表3）。

サトウキビの減産や生育不良によってサトウキビの糖度が低下したことを受け、砂糖生産量は2933万トン（同18.1%減、5月予測より増加）と大幅に減少すると見込まれる。輸出量は、砂糖の国際価格が回復傾向にあり、インド政府による輸出促進政策（同政府は2019/20年度に「砂糖輸出量600万トン」の目標を設定）達成への動きが加速すると見られることから、627万トン（同14.0%増、5月予測から増加）とかなり大きく増加すると見込まれている。

2019/20年度、サトウキビ代の26%がいまだに支払われず

インド消費者問題・食料・公共配給省は6月8日、同国の砂糖産業に関する検討会議を開催し、砂糖の生産状況やサトウキビ代の支払い状況などが議題に挙げられた。同省のプレスリリースによると、砂糖の調整保管や輸出補助金などの政策が奏功したことで製糖工場の経営改善が図られた一方、5月6日時点で全体の74%に相当する4925億ルピー（約7782億円）のサトウキビ代^{（注）}がすでに支払われたものの、残りの約26%はいまだに支払いが完了していない。延滞金が積み上がっている理由として、COVID-19の拡大防止を目的とした都市封鎖によって砂糖需要が減少したことで、製糖業者の減収が引き起こされていることが挙げられた。これに対し同省大臣は、延滞金の早期解消に向けたガイドラインの策定に着手する考えを示した。なお今後は、都市封鎖の緩和や経済活動の再開に伴い砂糖需要が回復し、6月～9月の4カ月間で国内市場へ約840万トン、国外へ約100万トンの砂糖が販売可能となることで、製糖業者の経営状態は改善するという予測が発表されている。

（注）2019/20年度分のサトウキビ代。

表3 インドの砂糖需給の推移

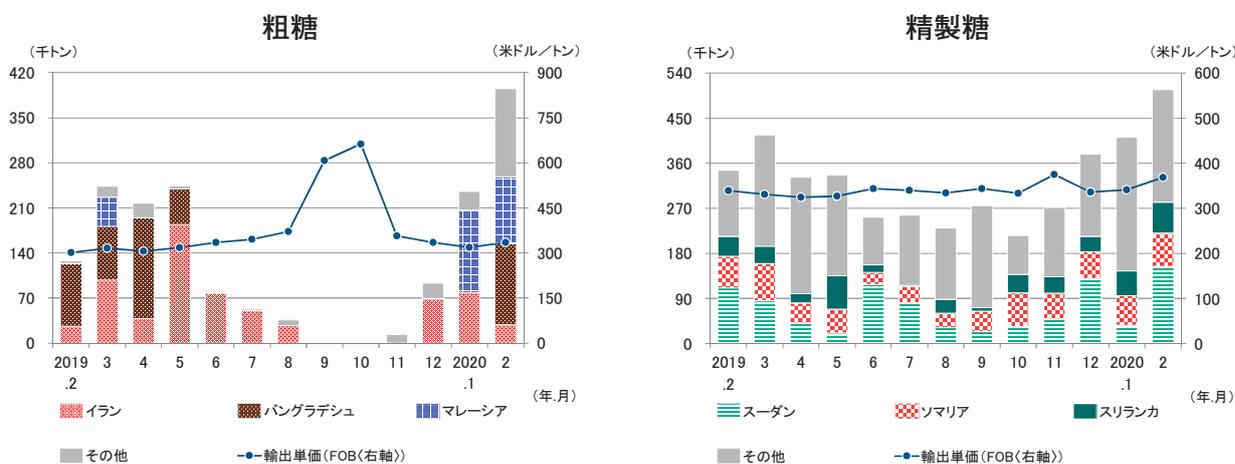
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (5月予測)	2019/20 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,327	4,826	5,148	4,606	4,610	▲ 10.4	
サトウキビ生産量	323,556	410,221	411,316	362,769	353,878	▲ 14.0	
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,798	29,113	29,329	▲ 18.1
	輸入量	2,536	2,308	664	850	900	35.6
	消費量	26,568	27,421	27,540	26,221	26,788	▲ 2.7
	輸出量	2,233	2,361	5,504	5,804	6,273	14.0
	期末在庫量	3,952	11,522	14,940	13,071	12,109	▲ 19.0
	期末在庫率	13.7	38.7	45.2	40.8	36.6	8.6ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

中国

2019/20年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：118万ha(前年度比3.5%減)

生産量：7769万トン(同1.1%減)

【てん菜】

収穫面積：21万ha(同12.4%減)

生産量：1090万トン(同6.6%減)

【砂糖(甘しゃ糖およびてん菜糖)】

生産量：1104万トン(同5.1%減)

輸入量：582万トン(同15.5%増)

2019/20年度、輸入量はかなり大きく増加する見込み

2019/20年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は118万ヘクタール(前年度比3.5%減、5月予測から変化なし)とやや減少し、天候不順で停滞していたサトウキビの生育状況に回復の兆しが

見られるものの、収穫面積の減少による影響を相殺しきれず、サトウキビ生産量は7769万トン(同1.1%減、5月予測から変化なし)とわずかに減少すると見込まれる(表4)。てん菜の主産地である内モンゴル自治区でヨトウムシなどによる害虫被害が発生したことから、てん菜の収穫面積は21万ヘ

クター（同12.4%減、5月予測から変化なし）とかなり大きく減少すると見込まれる。生育期間を通じておおむね天候に恵まれ、てん菜の根中糖分は前年度を上回っているものの、収穫面積の減少分を補うに至らず、てん菜生産量は1090万トン（同6.6%減、5月予測から変化なし）とかなりの程度減少すると見込まれる。

原料の減産に伴い、砂糖生産量は1104万トン（同5.1%減、5月予測より増加）とやや減少すると見込まれる。中央政府による国内の砂糖在庫の増加方針を受け、輸入量は582万トン（同15.5%増、5月予測より減少）とかなり大きく増加すると見込まれる。

関税割当枠外の輸入糖への追加関税、5月22日以降は無効に

UNICAによると、中国政府は2020年5月21日まで有効とされていた、関税割当枠外の輸入糖への追加関税の対象期間を延長しないことを決定したため、5月22日以降の割当枠外の輸入関税は50%に戻った。中国政府は2017年5月、砂糖の輸入品が国内産業に損害を及ぼしているとして「セーフガード措置」を発動し、関税割当枠外の輸入糖への関税

50%に追加関税45%を上乗せしていた^(注1)。

UNICAによると、ブラジル政府は2018年10月、中国政府の措置について世界貿易機関（WTO）に提起し、2国間協議を行ってきたが、中国政府が追加関税の期間を延長しない方針を示したため、ブラジル政府はパネル設置要請を取り下げることとしたという。

UNICAは中国政府の決定に歓迎の意を表明し、「COVID-19がブラジル国内の砂糖市場に影響を及ぼしている中、海外への輸出販路を拡大する機会を得た」とコメントした。一方中国の業界関係者は、追加関税が撤廃されたことで国産糖が海外から輸入される安価な砂糖に押され、国内の砂糖産業は大きな打撃を受ける可能性があるとして、悲観的な見解を示している。

(注1) 追加関税は1年ごとに5ポイントずつ引き下げられ、2018年5月には40%（合計90%）、2019年5月には35%（合計85%）となった。

(注2) 詳細は、2020年6月12日付海外情報「関税割当枠外の砂糖への追加関税を撤廃（中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002725.html)を参照されたい。

表4 中国の砂糖需給の推移

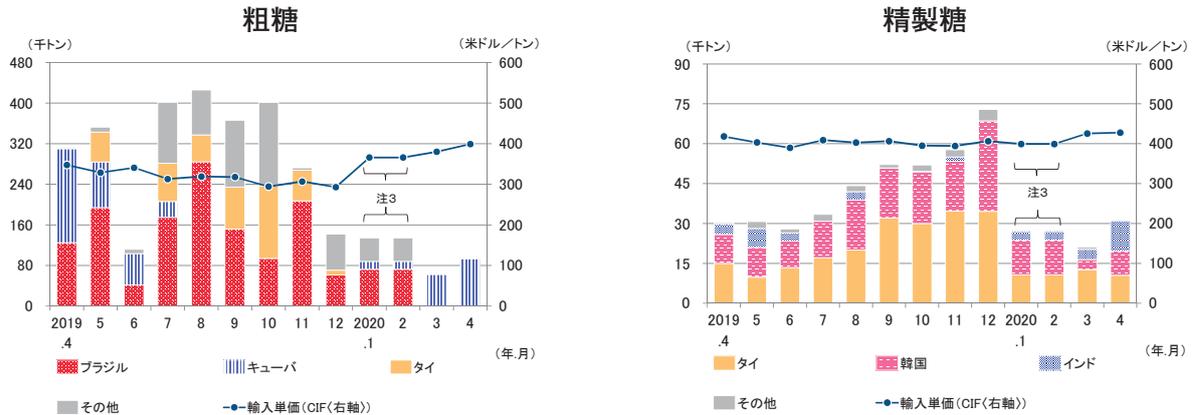
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (5月予測)	2019/20 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,178	1,231	1,219	1,176	1,176	▲ 3.5	
サトウキビ生産量	73,690	76,780	78,590	77,690	77,690	▲ 1.1	
てん菜収穫面積	168	186	243	213	213	▲ 12.4	
てん菜生産量	8,820	9,590	11,670	10,900	10,900	▲ 6.6	
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	10,935	▲ 5.1	
	輸入量	5,715	6,089	5,035	5,914	15.5	
	消費量	16,847	16,414	16,522	15,658	▲ 5.2	
	輸出量	146	182	210	196	▲ 6.8	
	期末在庫量	10,689	11,329	11,271	12,083	12,275	8.9
	期末在庫率	62.9	68.3	67.4	76.2	77.4	10.1ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

注3：2020年1、2月の数値は、中国海関総署が公表した1～2月の合計値を等分した。

E U・英 国

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：162万ha（前年度比5.5%減）

生産量：1億1471万トン（同3.3%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1816万トン（同0.5%減）

輸出量：120万トン（同36.9%減）

2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は162万ヘクタール（前年度比5.5%減、5月予測より減少）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、深刻な干ばつに見舞われた前年度からの反動で1億1471万トン（同3.3%増、5月予測より増加）とやや増加すると見込まれる。

平年より高温・乾燥した状況が続いたEU最大の砂糖生産国フランスにおけるてん菜の根中糖分の低下などが響き、砂糖生産量は1816万トン（同0.5%減、5月予測より減少）と横ばいで推移すると見込まれる。輸出量は、生産量が消費量を下回ると予想されることから、120万トン（同36.9%減、5月予測から変化なし）と大幅に減少すると見込まれる。

オランダ議会、EU・メルコスール間のFTA締結を否決

オランダ議会は6月3日、2019年6月末に欧州委員会とメルコスール（南米南部共同市場）^(注1)が政治合意した自由貿易協定（FTA）について、締結に反対する決議を採択した。同議会は同FTA締結を否決した理由として、「EUの食肉産業や砂糖産業は、安価な南米産の製品に市場を奪われる可能性がある」と指摘し、さらにFTA締結の前提条件のひとつとして環境保護を挙げているにも関わらず、ブラジルでは伐採などに起因する熱帯雨林の焼失に歯止めがかからないこともあり、同FTAへの反発が高まっていた。

同FTAが発効すると、ブラジル産の粗糖に対して現行の関税割当数量（41万2054トン）^(注2)の範囲内で無税の関税割当枠（18万トン）が設けられることとなる。このため、EUの製糖団体はFTA

に関する政治合意を撤回するよう欧州委員会に求めている。

同FTAの発効には、欧州議会の同意と欧州理事会での全会一致の決定が必要となるが、今回のオランダ議会の否決は、オーストリア議会に続き2例目となり、EU内の批准手続きは、さらに難航するものと予想される。

(注1) 外務省によると、メルコスールは域内の関税撤廃などを目的に発足し、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ベネズエラ、ボリビアの6カ国が加盟している。ただし、ベネズエラは加盟資格停止、ボリビアは各国議会の批准待ちで現在議決権はない。

(注2) ブラジル産粗糖に対する関税割当内の関税率は、33万4054トンについては1トン当たり98ユーロ（1万1858円）、7万8000トンについては同11ユーロ（1331円）が課せられる。また、関税割当外の関税率は同339ユーロ（4万1019円）である。

表5 EU・英国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

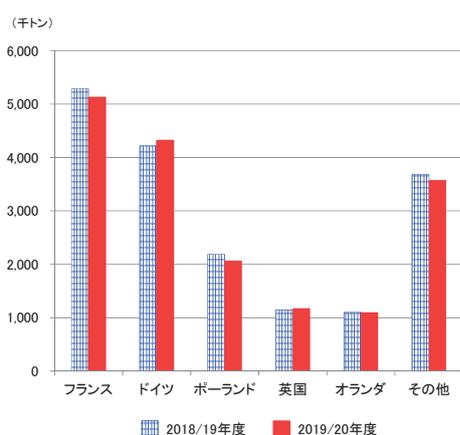
年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (5月予測)	2019/20 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,466	1,731	1,709	1,616	1,615	▲ 5.5	
てん菜生産量	107,986	139,453	111,028	114,646	114,706	3.3	
砂糖	生産量	17,069	21,734	18,258	18,225	▲ 0.5	
	輸入量	3,117	1,731	2,521	2,450	▲ 0.8	
	消費量	19,177	19,143	19,393	18,870	▲ 2.7	
	輸出量	1,510	3,809	1,895	1,196	▲ 36.9	
	期末在庫量	1,969	2,482	1,972	2,599	2,565	30.1
	期末在庫率	9.5	10.8	9.3	13.0	12.8	3.5ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

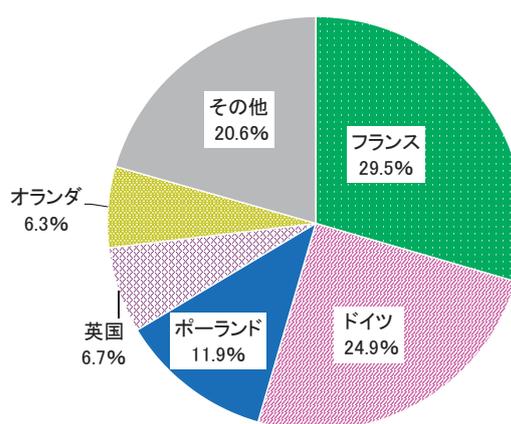
(参考) EU・英国の砂糖生産見通しおよび生産割合（2020年5月時点）

EU・英国の砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2019/20年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会
注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

5. 日本の主要輸入先国の動向（2020年6月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しゅ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しゅ糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピンで、2019年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が81.4%（前年比10.2ポイント増）、タイが18.6%（同9.5ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

以上により、この2カ国の動向については毎月報告し、南アフリカおよびフィリピンの動向についてはそれぞれ半年に1回の頻度で報告する（南アフリカは3月号および10月号、フィリピンは4月号および9月号を予定）。

本稿中の為替レートは2020年5月末日TTS相場の値であり、1タイ・パーツ=3.46円である。

豪州

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）

生産量：3200万トン（同6.5%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：449万トン（同4.7%増）

輸出量：350万トン（同4.6%増）

2020/21年度、砂糖生産量はやや増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減、5月予測から変化なし）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、記録的な干ばつに見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、3200万トン（同6.5%増、5月予測から変化なし）とかなりの程度増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上げ要因となり、449万トン（同4.7%増、5月予測から変化なし）とやや増加すると見込まれる。消費量の落ち込みを輸出促進によって相殺すると予測されることから、輸出量は350万トン（同4.6%増、5月予測より増加）とやや増加すると見込まれる。

降雨による土壌水分量の増加がサトウキビ収穫を妨げ、圧搾に遅れ

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）は、2020/21

年度におけるサトウキビの週間圧搾量の公表を開始した。これによると、5月下旬に降雨が続き、ハーベスタが圃場に入れなかった影響でサトウキビが収穫できず、製糖工場での圧搾の開始が前年度より1週間程度遅れた。結果、6月7日までの週間圧搾量は1万4891トン（前年同期比90.9%減）と大幅に減少した。一方、可製糖率（CCS）^{（注1）}は12.28と、前年同期の11.93を上回った。現地報道によると、サトウキビの主産地であるクイーンズランド（QLD）州のハーバート・バーデキン地域^{（注2）}などでは、6月に入っても降雨が続いており、製糖業者はサトウキビの収穫や圧搾を一時中断せざるを得ない状況にあるため、今後の週間圧搾量への影響が懸念されるとしている。

（注1）サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

（注2）ハーバート地区とバーデキン地区を合わせた区域。

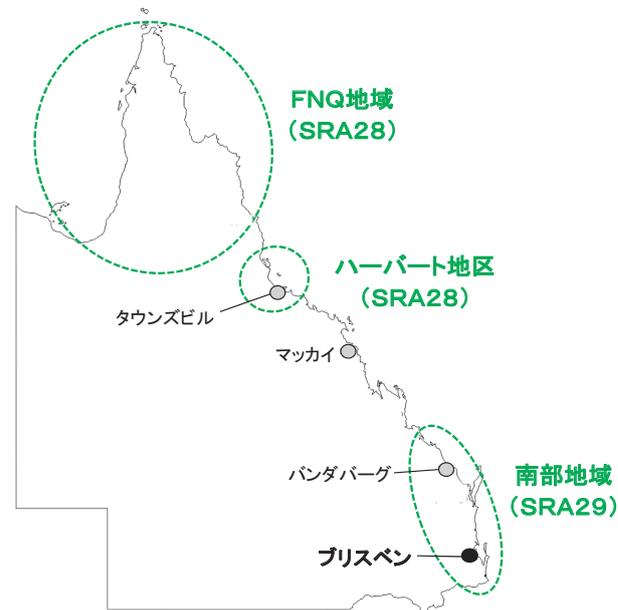
SRA、サトウキビの新品種2種類の承認を発表

豪州砂糖研究センター（SRA）は5月18日、SRAが開発したサトウキビの新品種（「SRA28」および「SRA29」）の栽培が、栽培対象地域のサトウキビ農家と製糖業者で構成された委員会（Regional Variety Committees）において承認されたと発表した。

SRA28は、既存品種と比べて単収やCCSが高いことや、耐倒伏性に優れ収穫しやすいこと、根腐病や葉焼け病、黒穂病への耐病性を持つことなどが特徴である。本承認によりSRA28は、QLD州北部のファー・ノース・クイーンズランド（FNQ）地域において2020/21年度から、同州ハーバート地区において2021/22年度から栽培が可能となった（図4）。

SRA29は、既存品種と同等の単収やCCSが期待でき、株出しを繰り返しても単収が保たれるという強みがある。SRA29は、2021/22年度から同州南部地域での栽培が認められた。

図4 SRA28およびSRA29の栽培が可能となるQLD州の地域



資料：SRAの資料 (<https://sugarresearch.com.au/growers-and-millers/varieties/regional-variety-committees/>) (2020/6/22アクセス) および d-maps.comの資料 (<https://d-maps.com/m/oceania/queensland/queensland46.gif>) (2020/6/22アクセス) を基に農畜産業振興機構作成

注：FNQ地域では、主に東海岸でサトウキビが栽培されている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (5月予測)	2020/21 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	376	379	364	361	361	▲ 1.0	
サトウキビ生産量	33,344	32,493	30,044	32,000	32,000	6.5	
砂糖	生産量	4,463	4,717	4,283	4,485	4,485	4.7
	輸入量	27	18	20	58	58	190.0
	消費量	1,019	1,050	1,053	1,116	1,036	▲ 1.6
	輸出量	3,590	3,562	3,347	3,282	3,502	4.6
	期末在庫量	849	972	875	1,020	880	0.6
	期末在庫率	18.4	21.1	19.9	23.2	19.4	0.5ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：156万ha（前年度比15.0%減）

生産量：7500万トン（同42.7%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：878万トン（同43.2%減）

輸出量：860万トン（同14.9%減）

2019/20年度、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2019/20年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作が活発化したことで、156万ヘクタール（前年度比15.0%減、5月予測から変化なし）とかなり大きく減少すると見込まれる（表7）。加えて、2019年初頭の降雨量が少なく、サトウキビの生育が停滞していることから、サトウキビ生産量は7500万トン（同42.7%減、5月予測から変化なし）と大幅に減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は878万トン（同43.2%減、5月予測から変化なし）と大幅に減少すると見込まれる。砂糖の減産に伴い輸出余力が低下し、輸出量は860万トン（同14.9%減、5月予測から変化なし）とかなり大きく減少すると見込まれる。

2019/20年度の焼きキビの割合は、全体の50%以下に

サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）が公表した2019/20年度の製糖実績によると、同年度に製糖工場で圧搾されたサトウキビは、干ばつの影響を受けて前年度比42.8%減の7489万トンとなった。このうち、焼き畑^{（注1）}で収穫されたサトウキ

ビ（以下「焼きキビ」という）は3718万トン（同53.5%減）、生のまま収穫されたサトウキビは3771万トン（同26.0%減）と、焼きキビの減少率が生のまま収穫されたサトウキビを上回った。また、同年度の焼きキビの割合は49.6%（同11.5ポイント減）と50%を下回ったものの、同政府が2019年2月の規制導入時に発表した焼きキビの削減目標割合である30%には届かなかった^{（注2）}。

2019/20年度の平均的なCCSは前年度と同程度の12.7であったが、サトウキビの大幅な減産が響き、砂糖生産量は同43.1%減の829万トンと大幅に減少した。また、製糖工場の平均稼働期間も、前年度の131日間から43日も短い88日間に短縮され、通常より1カ月以上早い3月末に操業を終了した。

（注1）サトウキビの梢頭部や葉を燃やした後に収穫する方法。

（注2）タイ政府は2019年2月以降、焼き畑による大気汚染を防止するため、製糖業者に対し焼き畑で収穫されたサトウキビの取引量を制限するなどの規制を行っている。

詳細は、「砂糖類・でん粉情報」2019年6月号「タイにおける砂糖産業の動向」（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001986.html）を参照されたい。

表7 タイの砂糖需給の推移

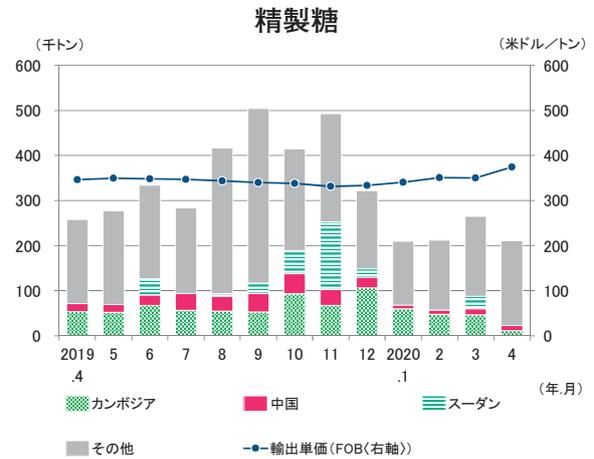
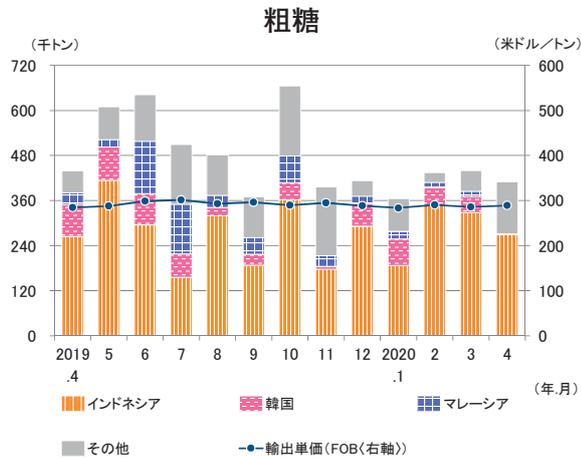
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (5月予測)	2019/20 (6月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,578	1,790	1,835	1,560	1,560	▲ 15.0
サトウキビ生産量	92,951	134,929	130,970	75,000	75,000	▲ 42.7
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	8,781	▲ 43.2
	輸入量	0	5	3	3	▲ 4.6
	消費量	3,283	3,434	3,737	3,610	▲ 3.4
	輸出量	7,393	9,820	10,113	8,603	▲ 14.9
	期末在庫量	3,951	6,289	7,899	4,470	▲ 43.4
	期末在庫率	37.0	47.4	57.0	36.6	36.6

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。